

　研修会参加者数　86名　アンケート回答者　54名　回収率　60」Ｚ4％

**Q５.認知症への取組や中田先生の講演を聞いて、今日の研修で気付いたり、考えが変わった事はありますか？**

・自分がみている視点だけでは狭いと感じた。多職種の視点の重要性を再確認した。

・仕事上患者さん個人のみに考えがいってしまいがちだが、周囲の支援や家族の状況などもふまえる必要もあると考え直すきっかけとなった。

・患者さんが不穏な状態になると声掛けがきつくなったりすることがありますが、自分たちのケアが患者さんに影響を与えていると知って、声掛け等のケアの在り方を改める必要があると気づきました。

・質の高いアセスメント能力の必要性、またそれを正しく伝え、正しいケアをすること、他の医療、地域、福祉が円滑に情報共有すること。

・中田先生が言われた「認知症の人の状態像はあなたのケアの鏡」という言葉に、普段の対応について振り返ることが出来た。

・認知症の方の状態は、自身のケアの鏡であるとまさにその通りだなと思いました。明日から自分自身のケアの在り方を考えていきたいです。

・支援者側のために多職種連携に参加していませんか？の問いかけ

・現状を正しく評価するためには質の高い情報収集をしていますかの問いかけ、頭が痛かったです。

・入院内容、外来、アセスメント

・正しい評価が大切。それが質の高い支援につながるということ。

・顔の見える関係づくりが改めて必要だと思った。

・今のケアが本人のためになっているかを常に考えること。

・支援を行う側として、本人の為の支援であることを大切にしたい。

・みんなでずっと考えていくことが大切という事。（ベテランも新人も家族もまじえ、本人の気持ちを考慮して）

・自分の介護のやり方を見直す必要があると思いました。（声掛け、対応等色々な面で）

・支援者の課題について話を深めた事。

・先生の話を聞いて、忘れていたことを思い出せました。

・サービス提供する人の在り方

・ご本人の安心の為に、しっかりお話を聞く。

・認知症の方への対応は笑顔とあったが、頭ではみんな分かっていると思う。きれい事ではなく、どうすれば笑顔になれるか教えてほしい。

・家族へのサポートが不十分だったと思いました。今後、支援する上で気をつけたいと思いました。

・顔の見える関係の次の一手を考える。本人や家族の為に支援者につなげて行きたい。そのためには質の高い情報収集をしたい。

・長年グループホームで働いていて、気持ち的に理解してるつもりだったが、改めて勉強し直さないといけないかなと思った。

・認知症は昔は隠す病であったものが、徐々にオープンになりつつあるのではないかと感じた。しかし、地域包括というには、まだまだ家族や地域の方々の学習の場が少なく、認知症に一番近い人の教育が遅れている気がした。

・専門職のスキルアップが重要であることを改めて感じました。

**Q６.当地域が、認知症になっても安心して暮らせる地域になるには何が大切だと思いますか？**

・早目に治療が受けられること。

・施設や病院間の連携の強化。

・認知症の理解。自分もなるのだから、きちんと患者さんに対応してあげようという心構え。

・地域での認知症についての知識を深める研修などが必要。

・施設の充実、人員の確保

・地域にサポーターが増えることが大切。家族やサービスだけでは限界がある。

・見配り、気配りの出来る地域

・なんでも気軽に相談できる人が居ること。

・地域のみんなで支え合う、声掛け会える関係。出かける場所がある。

・困っている人をゼロにすること。

・地域のコミュニティがしっかり残っていれば安心して地域内で過ごせると思います。

・ボランティア精神の育成

・ケアの統一と提供

・小地域で住民に対する講習会を行う。

・地域が個人個人の認知症の方と少しずつでも関わりをもち、それを大切に出来ること。

・近所づきあい

・各種サービスの連携の力（情報共有力）

・認知症の理解と心のゆとり

・若い人が増えること。マンパワーの増加。家族が話し合う事。本人にとっての生活を考えてあげること。

・認知症に対する正しい理解、地域のサポート

・周囲の理解と協力

・様々な人から集めた情報の共有が必要だと思いました。

・サポート医、支援チームの充実

・正しい情報をもって地域、医療、福祉の連携

・ＩＴやロボットの活用

・認知症とはどんな病気なのかを正しくしっかり理解していく。認知症サポーター養成講座等を開催し広めていく。

・自分も将来認知症になるかもと思う気持ちをもって支援すること。

・学び

・相談できる場所

・やさしい対応の出来る人を増やす。

・心に余裕のある人を増やす。

・あきらめず認知症の方、家族を支え合っていく。

・学校での教育（授業）や、図書館などでのわかりやすい本の紹介など、医療・介護関係者だけでなく、一般の人が理解を深めるきっかけが大切だと思います。

・本人、家族、地域、職場において認知症に関する正しい知識を普及していくことが大切であると思います。

**Q７.講義の内容や、会議の企画・運営に対するご意見（グループワークの方法など）があればお書き下さい。**

・グループワークはこのスタイルがいいと思います。

・発表者がなかなか決まらない。司会進行がやった方がいいのか・・・

・もう少しグループワークの時間が欲しいです。

・専門用語が多くて大変でした。勉強させて頂きました。

・認知症の方のご家族様の参加

・継続的に研修を実施していただきたいと思います。

・書記決めの方法をもう少し考えてほしい。

・中田先生のお話とても分かり易かったです。ご指摘は頭の痛いものでしたが、普段から情報をきちんと集められているか？誰のための連携か？を意識して取り組んでいきたいと思いました。

※同じ内容のご意見はまとめて掲載させて頂きました。